

# JCI JAPAN TOYP 2020 エントリーシート

氏名*	Uriyanghai Muren
フリガナ*	オリヤンハイ ムルン
所属団体*	無(内モンゴル自治区のシャーマン)
活動内容* (200文字以内)	生まれ育った内モンゴルの実家、ホイトモドン村は環境問題からはじめ、貧困、教育といった村の存続に関わる問題を抱えています。私は幼い頃から村のために何かをしたいと思っていたので、村の現状を変えたくて、2016年から村を再生する活動を始めました。再生において、まず村の枯れた湖の再生のプロジェクトを開始し、その三年後に村の貧困を支援するマイクロフィナンスを立ち上げ、現在村人と一緒になって活動を進めています。
活動カテゴリー*	<input checked="" type="checkbox"/> ビジネス・経済・起業 <input type="checkbox"/> 学術 <input type="checkbox"/> 文化 <input checked="" type="checkbox"/> 倫理・環境 <input type="checkbox"/> 青少年育成・世界平和・人権 <input type="checkbox"/> 人道支援・ボランティア <input type="checkbox"/> 科学技術 <input type="checkbox"/> 自己啓発 <input type="checkbox"/> 政治・法律 <input type="checkbox"/> 医療革新 <input type="checkbox"/> その他( )
紹介者氏名 紹介者がいる方は記入	小池 秀明
紹介者所属団体	有限会社小池 株式会社インターローカルパートナーズ NPO 法人ぐんま CSO
JCI JAPAN TOYP を どこで知りましたか？	青年会議所(会員からの推薦(一般社団法人沼田青年会議所))・ホームページ・フェイスブック・チラシ・メディア( )・その他( )
紹介理由 (200文字以内)	群馬県高崎市で短期移住生活をし、世界遺産・上野山碑にも表される上州高崎の多文化共生の歴史を学びながら、祖国の文化や現状を発信し、国境や文化の違いを超えた関係構築に尽力しています。故郷の環境再生や貧困対策のマイクロファイナンスには日本全国に多数賛同者がおり、現地へ赴いての交流も毎年行われています。使命感溢れる彼の今後の活動が世界平和の一助となる事を期待しています。

顔写真\*



経歴  
(200 文字以内)

中国内モンゴル自治区出身  
2010年4月 来日  
2011年 日本語学校 スピーチコンテスト最優秀賞を受賞  
2013年4月 中央大学 経済学部入学  
2013年6月 アジアNGOリーダー塾入塾  
2016年 ホイトモン村湖再生プロジェクトを開始  
2018年4月 千葉大学大学院 人文公共学府入学  
2019年 ホイトモン村支援マイクロフィナンスを立ち上げる  
2019年 千葉キワニス国際親善賞優秀賞を受賞  
2020年 修士論文『風土学的発展論』を完成  
2020年4月 株式会社 YEEY に入社

活動PR1\*  
(200 文字以内)

従来の地域再生において、経済成長を中心とする開発手法が主な形式になっています。しかし、経済成長を促すインフラ整備や経済援助の政策だけでは、地域の自然環境、伝統文化等に配慮できる開発の在り方が構築されません。この問題意識を念頭において、私自身を中心となってホイトモン村では自然環境の再生を第一ステップとする開発の手法を取り入れました。そして、その再生を祭祀という村の伝統的な手法で行いました。

<p>活動PR2* (200 文字以内)</p>	<p>内モンゴルでは古くから湖や山の神様を祭ることで地域の安定、発展を願う習慣があり、祭祀を通じて人々が自然に敬意を払い、生活と自然環境が繋がっていました。しかし、市場経済の浸透によってこの伝統がだんだん人々に忘れられ、自然との絆が失われました。そこで、2016年に枯れた湖に人工的に水を入れて、従来行われていた祭祀を復活させました。現在、毎年の湖の祭祀に多くの村人が訪れ、自然との絆が回復しつつあります。</p>
<p>活動PR3 (200 文字以内)</p>	<p>祭祀を通じて、現在村人と自然の間では一つの交流が生まれ、この交流が村の再生を行う上で不可欠な一環となっています。また、村の貧困を援助するマイクロファイナンスの立ち上げで、自然環境再生と経済再生が同時に行われています。このように、村の環境、経済、生活はバランスがとれた形の新しい開発が進められています。今後、湖の再生に科学技術も導入しながら、村に学校がない現状も少しずつ改善して行く予定です。</p>
<p>SDGsのゴールと ターゲット番号及び 結びつきの説明</p>	<p>(17 パートナシップで目標を達成しよう)</p> <p>(17. 16 :すべての国々、特に開発途上国での持続可能な開発目標の達成を支援すべく、知識、専門的知見、技術及び資金源を動員、共有するマルチステークホルダー・パートナーシップによって補完しつつ、持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップを強化する。)</p> <p>結びつきの説明 (ホイトモドン村の開発において、村の伝統文化を活かしながら日本との交流を進めているので、村の環境、経済、生活のバランスがとれた発展を達成させるために国際的な支援が欠かせません。)</p>

■質問事項（全200文字以内厳守）

<p>質問1* (200 文字以内)</p>	<p>活動を始めたきっかけを教えてください</p> <p>幼い頃から村を良くしていきたいという夢があり、また年々村の環境の悪化や貧困が拡大していたことから、活動を早めに始めたいという思いが常にありました。そして、2014年に家業を継ぎシャーマンになったことで祭祀をできる能力が備ったのも、活動を後押ししてくれました。他に、日本の大学で学んでいた公共・環境経済学の知識が、新しい開発の在り方を考える大きな思想背景となりました。</p>
<p>質問2* (200 文字以内)</p>	<p>この活動を通してどのような未来を実現したいと思っていますか(ビジョン)</p> <p>経済成長だけでなく、発展において人間と自然の交流があり、人やコミュニティ、国家の内なる発展もあることが私の実現したい未来です。</p>
<p>質問3* (200 文字以内)</p>	<p>未来を実現するために今行っている具体的な活動をお答えください(アクション)</p> <p>湖の祭祀は年に一回行われているが、今後科学技術で湖の水を増やして行けるよう、色々模索しています。2019年に12人の日本人が村の湖祭祀に参加したことが、マイクロファイナンスを立ち上げる大きな力になったので、今後もこのような交流を増やしていきたいと考えています。また、村の主要な産業である牧畜と農業の生産、加工、流通販売の一体化を実現していけるよう今計画を進めています。</p>
<p>質問4* (200 文字以内)</p>	<p>あなたの行っている活動は社会にどのような影響を与えていますか(インパクト)</p> <p>自然との交流、これは途上国、先進国を問わず私たちに欠いていることです。現在、内モンゴル自治区ホイトモドン村で行われている活動は、環境、経済、生活のバランスがとれた形の新しい開発の手法であり、他の地域で先進事例として参考になることを期待できます。</p>

質問5 (200 文字以内)	<p style="color: blue;">あなたの考えるリーダーシップをお答えください</p> <p>人々を一つにまとめ、各個人が能力を最大に発揮できる環境をつくれるリーダーシップです。</p>
-------------------	--

■推薦者情報 推薦者がいる場合のみ記入

ブロック名*	群馬ブロック協議会
青年会議所名*	一般社団法人沼田青年会議所
担当役職*	理事
担当者氏名*	六本木 勇治
フリガナ*	ロツボンギ ユウジ
推薦理由* (200 文字以内)	<p>ムルンさんとの出会いは紹介者である小池氏が関わっている2019年2月に行われた東京でKIRINの地域創生のイベントでした。氏の歩みはシートにも書いてある通り、目には見えない領域から地域を活性化や再生させるものであります。それはかつて多くの日本人の心の中にも生きていたものだと感じると共に様々な繋がりを感じさせるものでもありました。氏の歩む道に関わる事で改めて世界を見てみたいと思い推薦いたしました。</p>